

2005年12月号
No.434

りゅうぎん調査

2005年12月号

Bank of the Ryukyus'
Okinawan Economic Review

No.434



琉球銀行経済調査室
www.ryugin.co.jp

県内の景気動向

概況（10月）

景気は、回復を続けている

観光関連では、入域観光客数が前年を上回る

消費関連では、電気製品卸売が前年を上回る

10月の県内景気をみると、消費関連では、百貨店売上高は、気温が高く秋物衣料が伸び悩んだことなどから4カ月ぶりに前年を下回った。スーパー売上高（既存店）は、食料品、衣料品ともに減少したことから3カ月連続で前年を下回った。全店ベースでは、新設店効果により4カ月連続で前年を上回った。新車販売は、軽乗用車が引き続き好調に推移し8カ月連続で前年を上回った。電気製品卸売は、大手量販店開店の効果により2カ月連続で前年を上回った。建設関連では、公共工事請負金額は、国および県の発注工事は増加したものの、市町村が減少したことから3カ月連続で前年を下回った。県内主要建設会社の受注額は、公共工事は増加したものの民間工事が減少したことから3カ月連続で前年を下回った。建設資材出荷・売上では、セメント、生コン、鋼材は引き続き前年を上回り、建材も5カ月ぶりに前年を上回った。観光関連では、入域観光客数は、航空提供座席や修学旅行の増加などから8カ月連続で前年を上回った。主要ホテルは、稼働率は7カ月連続で前年を上回り、売上高は5カ月連続で前年を上回った。主要観光施設入場者数は5カ月連続で前年を上回った。

総じてみると、観光関連が引き続き好調に推移し、消費関連に底堅さがみられ、建設関連は持ち直していることから、県内景気は回復を続けている。

消費関連

百貨店売上高は、気温が高く秋物衣料が伸び悩んだことなどから4カ月ぶりに前年を下回った。スーパー売上高（既存店）は、食料品、衣料品ともに減少したことから3カ月連続で前年を下回った。全店ベースでは、新設店効果により4カ月連続で前年を上回った。新車販売は、軽乗用車が引き続き好調に推移し8カ月連続で前年を上回った。電気製品卸売は、大手量販店開店の効果により2カ月連続で前年を上回った。

建設関連

公共工事請負金額は、国および県の発注工事は増加したものの、市町村が減少したことから3カ月連続で前年を下回った。県内主要建設会社の受注額は、公共工事は3カ月ぶりに増加したものの、民間工事が7カ月ぶりに減少したことから3カ月連続で前年を下回った。建設資材出荷・売上では、セメントは3カ月連続で前年を上回り、生コンも2カ月連続で前年を上回った。鋼材は6カ月連続で前年を上回り、建材は5カ月ぶりに前年を上回った。

観光関連

入域観光客数は、航空路線の増便や機材の大型化による提供座席数の増加や修学旅行の増加などから8カ月連続で前年を上回った。主要ホテルは、修学旅行の増加などから稼働率は7カ月連続で前年を上回り、売上高は5カ月連続で前年を上回った。主要観光施設入場者数は入域観光客数の増加を背景に5カ月連続で前年を上回った。

雇用関連

新規求人数は前年同月比14.3%増となり、21カ月連続で増加した。有効求人倍率（季調値）は0.43倍と前月と同水準であった。完全失業率は8.8%となり、前年同月より0.8ポイント上昇した。

その他

消費者物価指数は、食料、教養娯楽などが下落したことから前年同月比0.9%の低下となった。企業倒産は、件数が5件と前年同月より2件減少したものの、負債総額は10億8,000万円と前年同月比16.9%の増加となった。

りゅうぎん調査(2005年10月)

増減率(%)

	前年同月比	前年同期比 (2005.08 - 2005.10)
1.消費関連		
(1)百貨店(金額)	0.3	0.3
(2)スーパー(既存店)(金額)	0.1	0.8
(3)スーパー(全店)(金額)	1.8	1.3
(4)新車販売(台数)	7.8	8.5
(5)電気製品卸売(金額)	31.5	10.3
2.建設関連		
(1)公共工事請負金額(金額)	5.3	13.5
(2)建築着工床面積(m ²)	(9月) 36.6	(7-9月) 17.4
(3)新設住宅着工戸数(戸)	(9月) 1.6	(7-9月) 5.2
(4)建設受注額(金額)	24.9	22.8
(5)セメント(トン数)	12.0	12.0
(6)生コン(m ³)	7.2	6.2
(7)鋼材(金額)	1.1	5.2
(8)建材(金額)	3.5	0.5
3.観光関連		
(1)入域観光客数(人数)	11.8	8.8
(2)県内主要ホテル稼働率	(前年同月差) 8.6 (実数) 81.4	(前年同期差) 5.9 (実数) 85.9
(3) " 売上高(金額)	9.3	4.8
(4)観光施設入場者数(人数)	5.3	7.4
(5)ゴルフ場入場者数(人数)	3.2	7.9
(6) " 売上高(金額)	3.5	8.2
4.その他		
(1)県内新規求人数(人数)	14.3	10.5
(2)有効求人倍率(季調値)	(実数) 0.43	(実数) 0.42
(3)消費者物価指数(総合)	0.9	0.7
(4)企業倒産件数(件数)	(前年同月差) 2	(前年同期差) 0.0
(5)広告収入(県内マスコミ)(金額)	(9月) 0.5	(7-9月) 0.7
(6)電力使用量(百万Kw)	(9月) 2.8	(7-9月) 1.6

(注1) 公共工事請負金額は西日本建設業保証株式会社沖縄支店調べ。建築着工床面積、新設住宅着工戸数は国土交通省調べ。県内新規求人数、有効求人倍率は沖縄労働局調べ。入域観光客数、消費者物価指数は沖縄県調べ。企業倒産件数は東京商工リサーチ沖縄支店調べ。Pは速報値。

(注2) 企業倒産件数の前年同期差は、月平均件数の前年同期差。

(注3) スーパー売上高は、2005年1月より調査先を4社から5社とした。

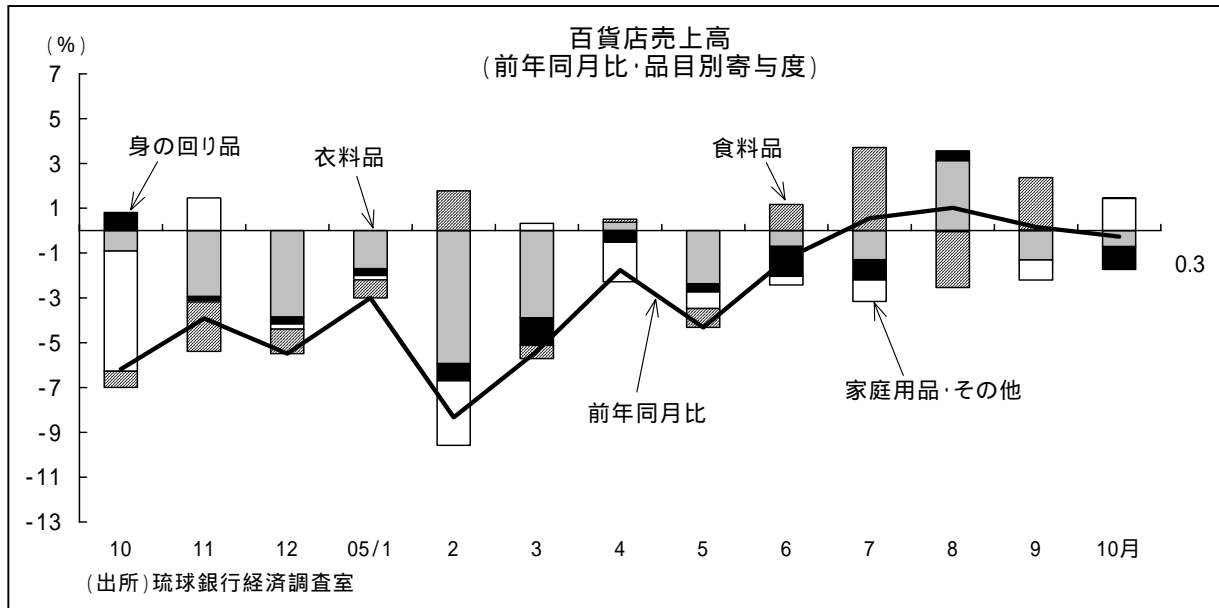
(注4) 電気製品卸売販売額は、2005年1月より調査先を6社から10社とした。

(注5) 主要ホテルは、2005年3月より調査先を18ホテルから17ホテルとした。

(注6) ゴルフ場は、2005年1月より調査先を8ゴルフ場から9ゴルフ場とした。

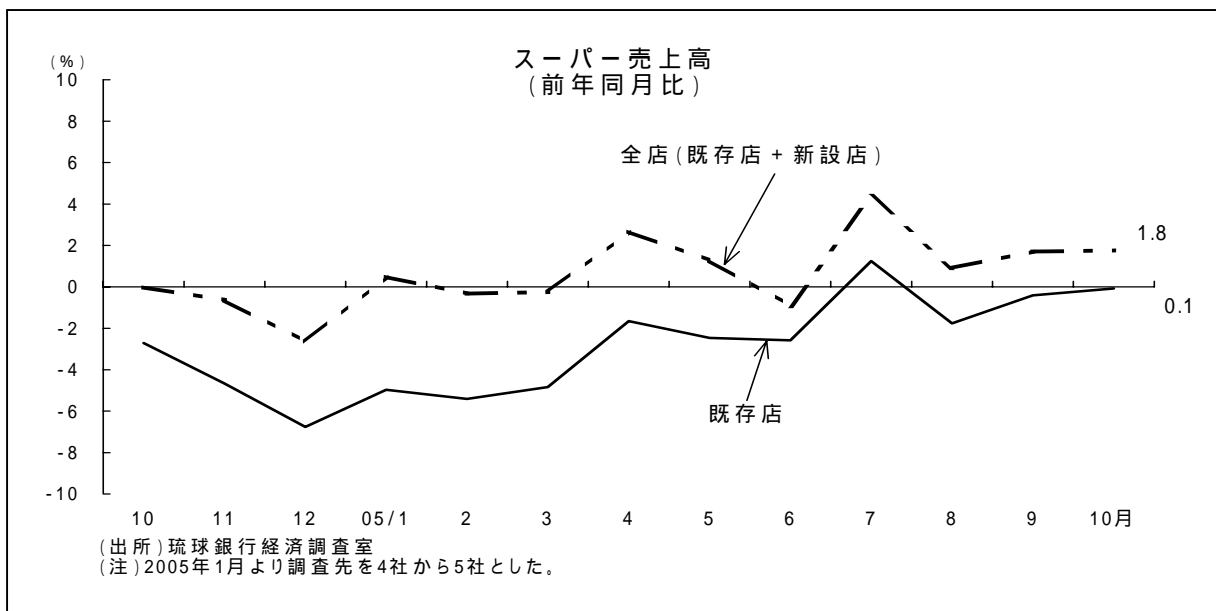
1. 消費関連

(1) 百貨店売上高：4カ月ぶりに減少



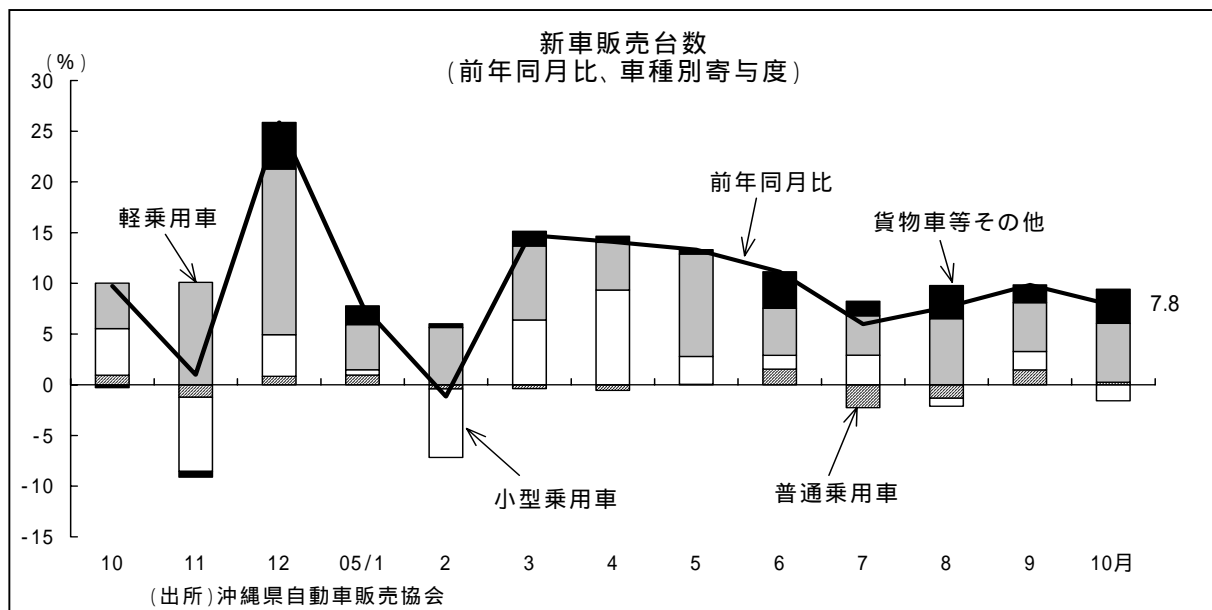
- 百貨店売上高は、前年のような台風の影響による休業がなかったものの、気温が高く推移したことにより秋物衣料などが伸び悩んだことから前年同月比0.3%減となり、4カ月ぶりに前年を下回った。
- 品目別にみると、食料品(同0.1%増)、家庭用品・その他(同6.2%増)が増加し、衣料品(同1.8%減)、身の回り品(同8.2%減)が減少した。

(2) スーパー売上高：全店ベースでは4カ月連続で増加



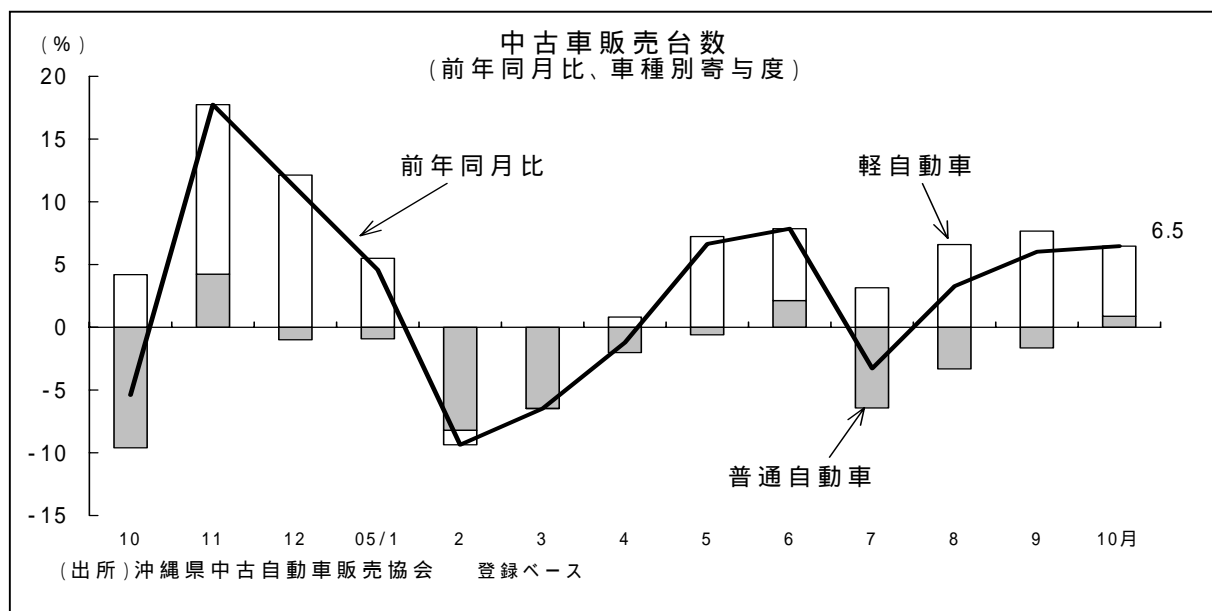
- スーパー売上高は、既存店ベースでは前年同月比0.1%減と3カ月連続で前年を下回った。
- 食料品は、前年が9月の台風の影響により運動会等の行事が10月にずれ込んだ反動などにより同0.8%減、衣料品は、気温が高く推移したことにより秋物衣料が伸び悩んだことなどから同1.3%減とともに減少した。
- 全店ベースでは、新設店効果などから前年同月比1.8%増と4カ月連続で増加した。

(3) 新車販売台数：8カ月連続で増加



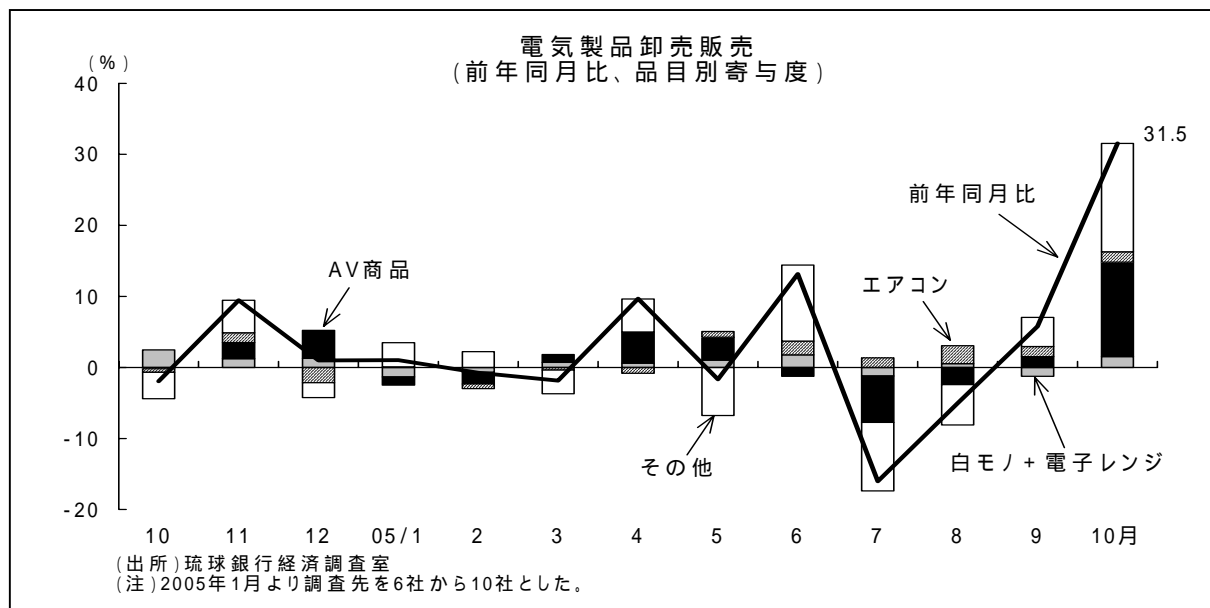
- ・ 新車販売台数は、2,989 台と軽乗用車が引き続き好調に推移したことから前年同月比 7.8% 増となり、8 カ月連続で前年を上回った。
- ・ 普通自動車（登録車）は 979 台（同 2.6% 減）で、うち普通乗用車は 226 台（同 3.2% 増）、小型乗用車は 619 台（同 6.6% 減）であった。軽自動車（届出車）は 2,010 台（同 13.8% 増）で、うち軽乗用車は 1,708 台（同 10.4% 増）であった。

(4) 中古自動車販売（登録ベース）：3 カ月連続で増加



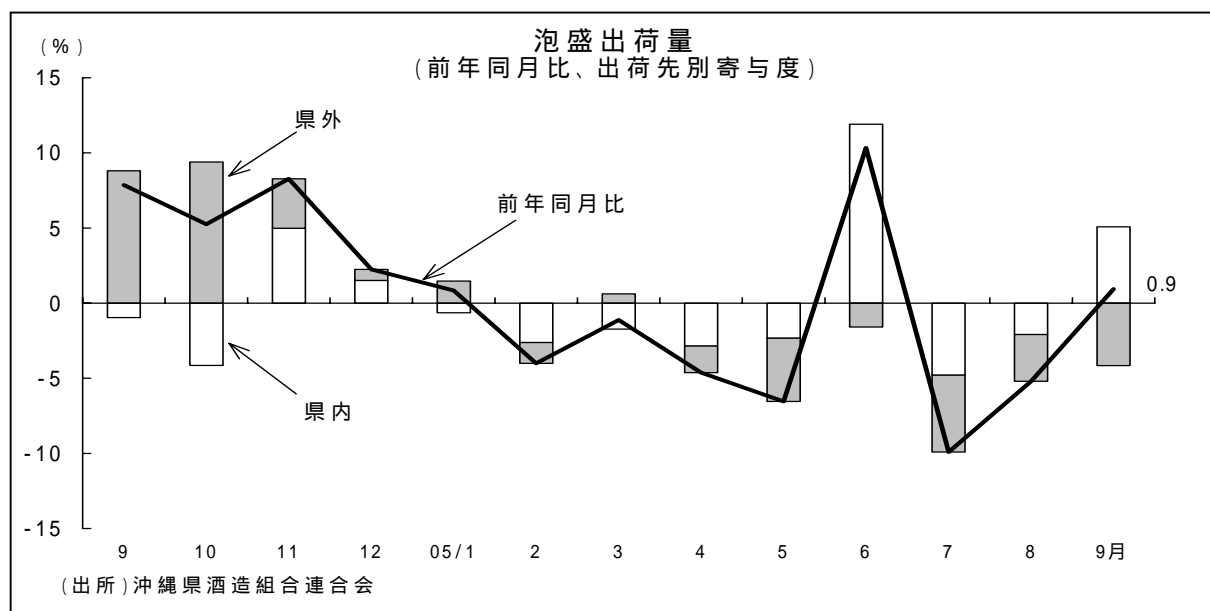
- ・ 中古自動車の登録状況（普通自動車及び軽自動車の合計）は、前年同月比 6.5% 増となり 3 カ月連続で前年を上回った。内訳では、普通自動車は同 1.5% の増加、軽自動車は同 13.1% の増加となった。

(5) 電気製品卸売販売額：2 カ月連続で増加



- 電気製品卸売販売額は、大手量販店開店の効果により前年同月比 31.5% 増となり 2 カ月連続で前年を上回った。
- 品目別にみると、AV 商品ではテレビが同 91.3% 増、DVD・ビデオデッキが同 16.9% 増、白モノでは洗濯機が同 25.0% 増、冷蔵庫が同 6.4% 減、エアコンは同 54.3% 増、その他ではパソコンが同 73.2% 増となった。

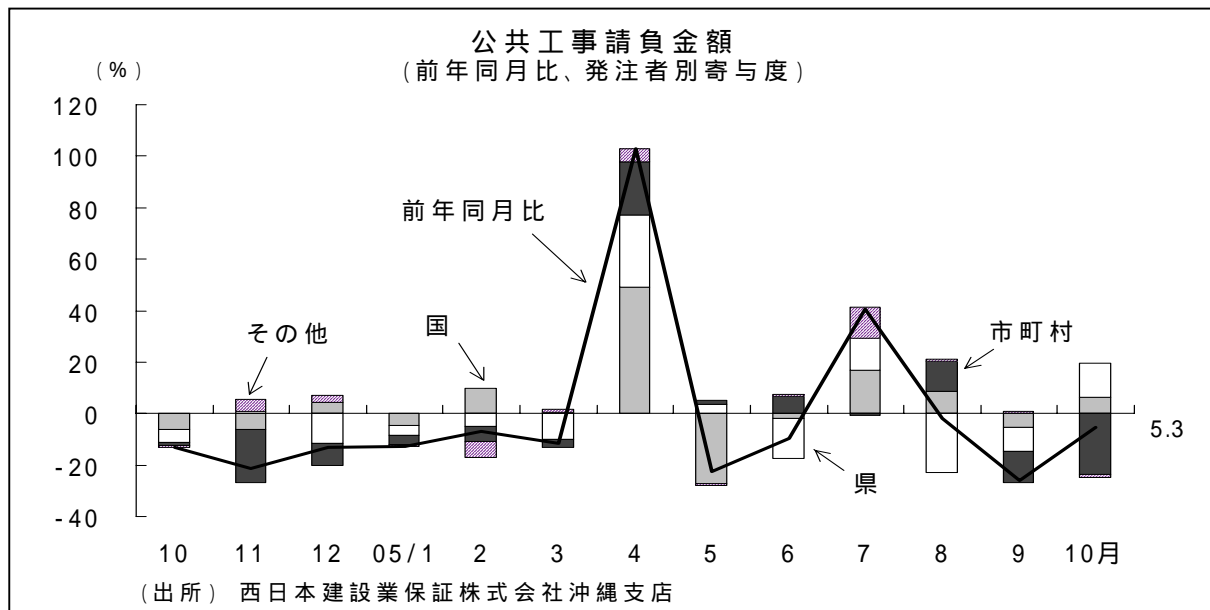
(6) 泡盛出荷量：3 カ月ぶりに増加



- 泡盛出荷量 (9 月) は、前年同月比 0.9% 増となり 3 カ月ぶりに前年を上回った。県内出荷量は同 6.7% 増、県外出荷量は同 17.2% 減となった。

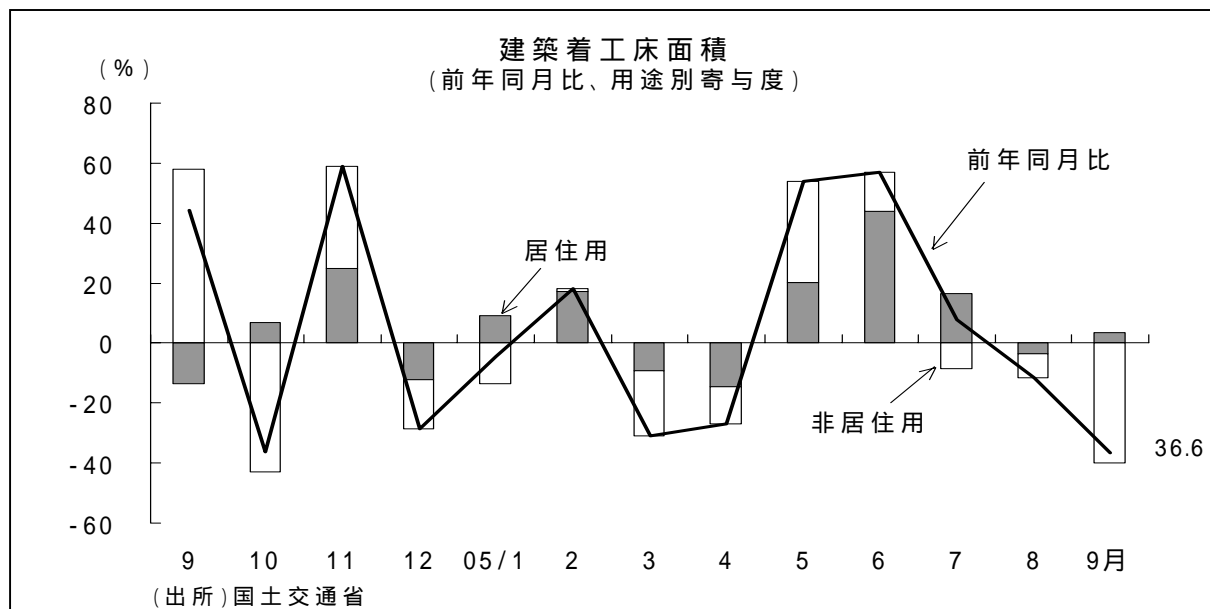
2. 建設関連

(1) 公共工事請負金額：3カ月連続で減少



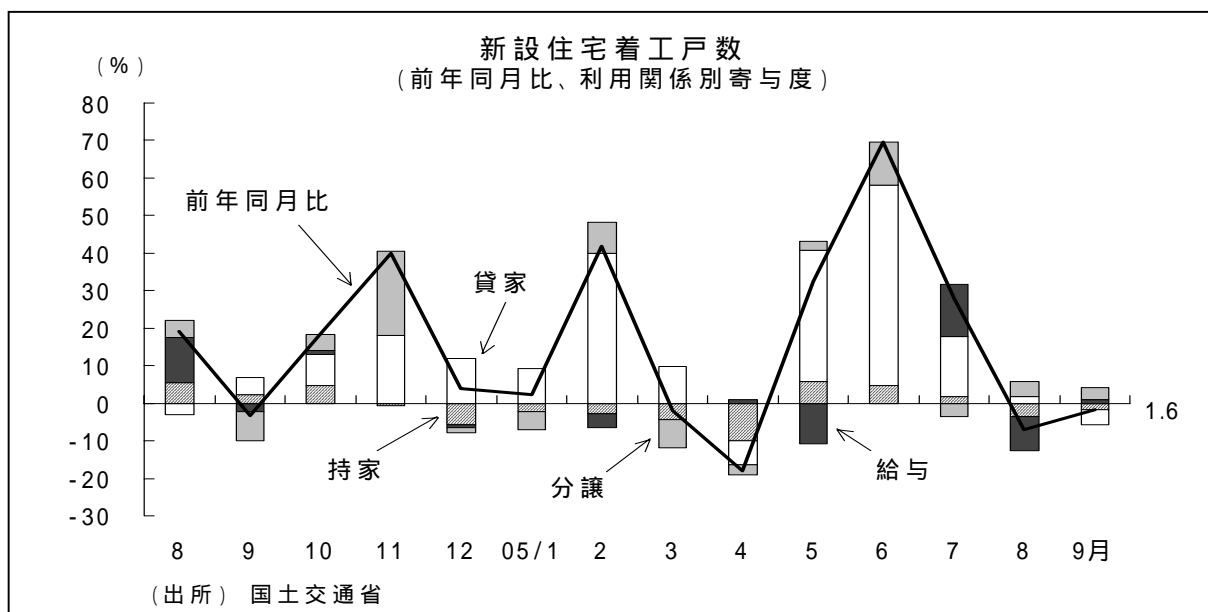
- 公共工事請負金額は、300億60百万円で前年同月比5.3%減と3カ月連続で前年を下回った。
- 発注者別では、国(同37.4%増)、県(同64.4%増)が増加したものの、市町村(同42.3%減)が減少した。
- 大型工事としては、大保脇ダム本体建設工事、沖縄環状線比屋根トンネル新設工事、那覇駐屯地整備場新設工事、宜野湾浄化センター設備工事、糸満人工礁造成工事、一般廃棄物海面最終処分場設備工事などがあつた。

(2) 建築着工床面積：2カ月連続で減少



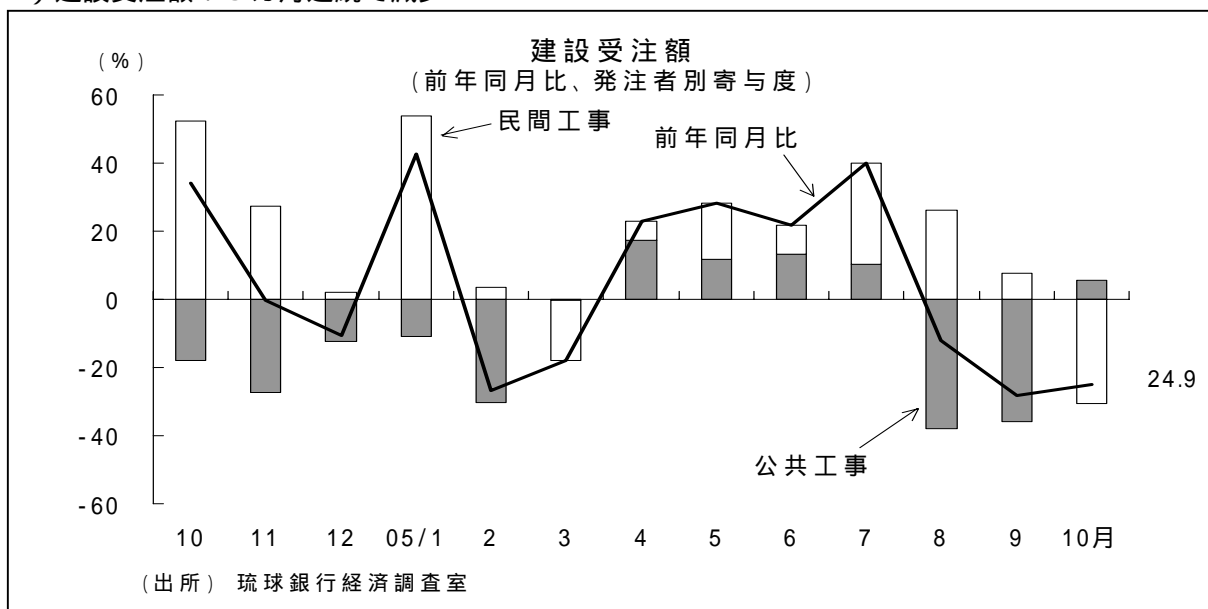
- 建築着工床面積(9月)は、16万5,201㎡で前年同月比36.6%減と2カ月連続で前年を下回った。用途別では、居住用(同8.9%増)が増加し、非居住用(同66.6%減)が減少した。
- 建築着工床面積を用途別(大分類)にみると、居住専用(9万9,624㎡)が最も大きく、次いで教育・学習支援業用(1万5,347㎡)、居住産業併用(1万3,066㎡)、その他サービス業用(7,762㎡)、公務用(5,980㎡)等の順であつた。

(3) 新設住宅着工戸数：2カ月連続で減少



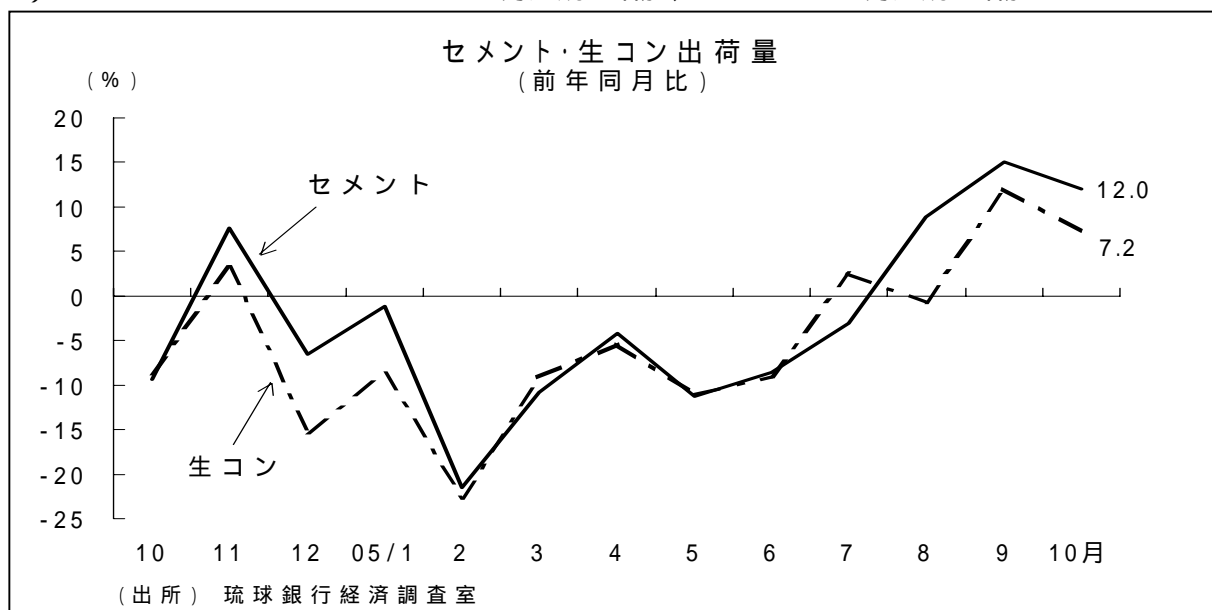
- ・ 新設住宅着工戸数（9月）は、1,289戸で前年同月比1.6%減と2カ月連続で前年を下回った。
- ・ 利用関係別では、分譲（同151.9%増）給与（同全増）が増加したものの、持家（同7.8%減）貸家（同5.4%減）が減少した。
- ・ 都市別（市部）にみると、那覇市（前年同月差156戸増）沖縄市（同81戸増）宜野湾市（同35戸増）等で増加し、浦添市（同61戸減）糸満市（同30戸減）石垣市（同14戸減）名護市（同11戸減）などで減少した。

(4) 建設受注額：3カ月連続で減少



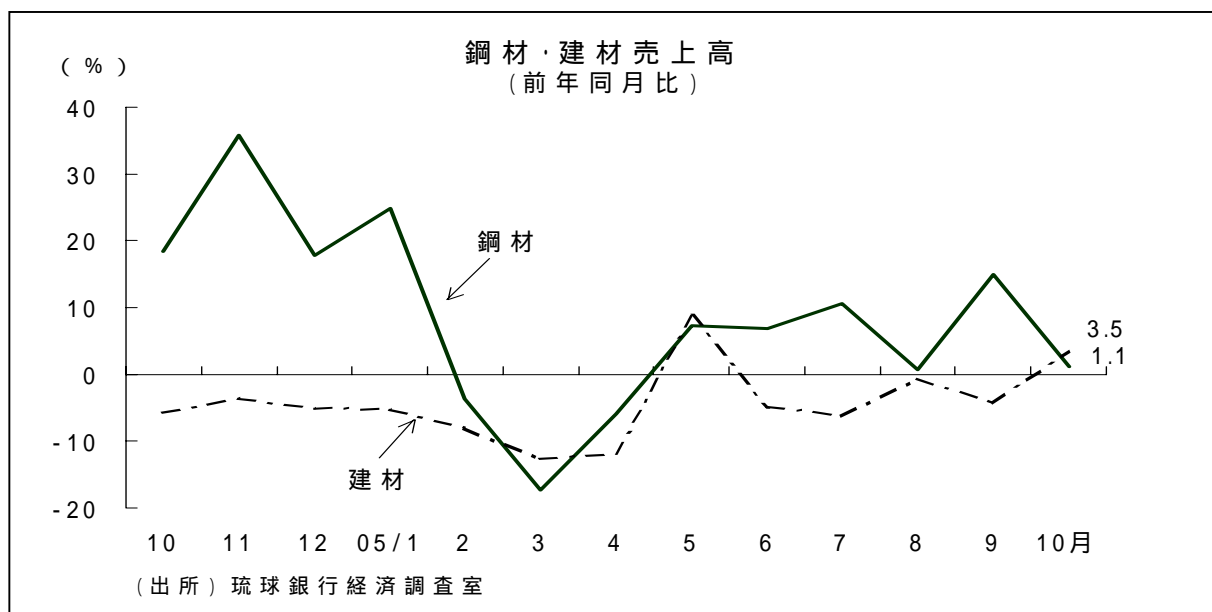
- ・ 建設受注額（調査先建設会社：20社）は、前年同月比24.9%減と3カ月連続で前年を下回った。
- ・ 発注者別では、公共工事（同19.8%増）が3カ月ぶりに増加したものの、民間工事（同42.8%減）が7カ月ぶりに減少した。
- ・ 主な受注工事は、民間工事では分譲マンションや造船関連施設、婚姻関連施設、商業施設の建設工事などがあり、公共工事ではトンネルやダム、農業関連施設等の建設工事などがあつた。

(5) セメント・生コン：セメントは3カ月連続で増加、生コンは2カ月連続で増加



- ・ セメント出荷量は、8万8,039トンで前年同月比12.0%増と3カ月連続で前年を上回った。
- ・ 生コン出荷量は、18万8,564立方メートルで同7.2%増と2カ月連続で前年を上回った。
- ・ 生コン出荷量を出荷先別にみると、民間工事では共同住宅や医療施設、ホテル建設向けを主因に増加し、公共工事では基地関連工事や海事工事、橋梁工事向け出荷を中心に増加した。

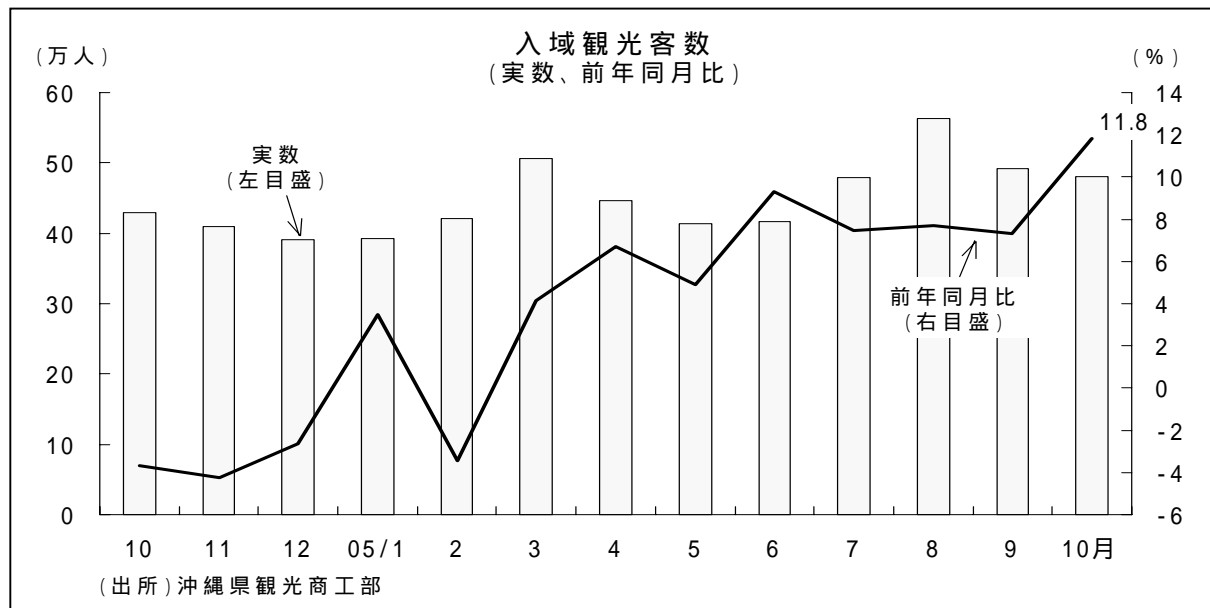
(6) 鋼材・建材：鋼材は6カ月連続で増加、建材は5カ月ぶりに増加



- ・ 鋼材売上高は、前年同月比1.1%増と6カ月連続で前年を上回った。価格は高値横ばいで推移しているものの、大型物件向けの出荷が少なかったこともあり、増加幅は鈍化した。
- ・ 建材売上高は、同3.5%増と5カ月ぶりに前年を上回った。商業施設向け出荷や県外出荷等が鈍化したものの、貸家や分譲マンション等の集合住宅向け出荷が堅調に推移した。

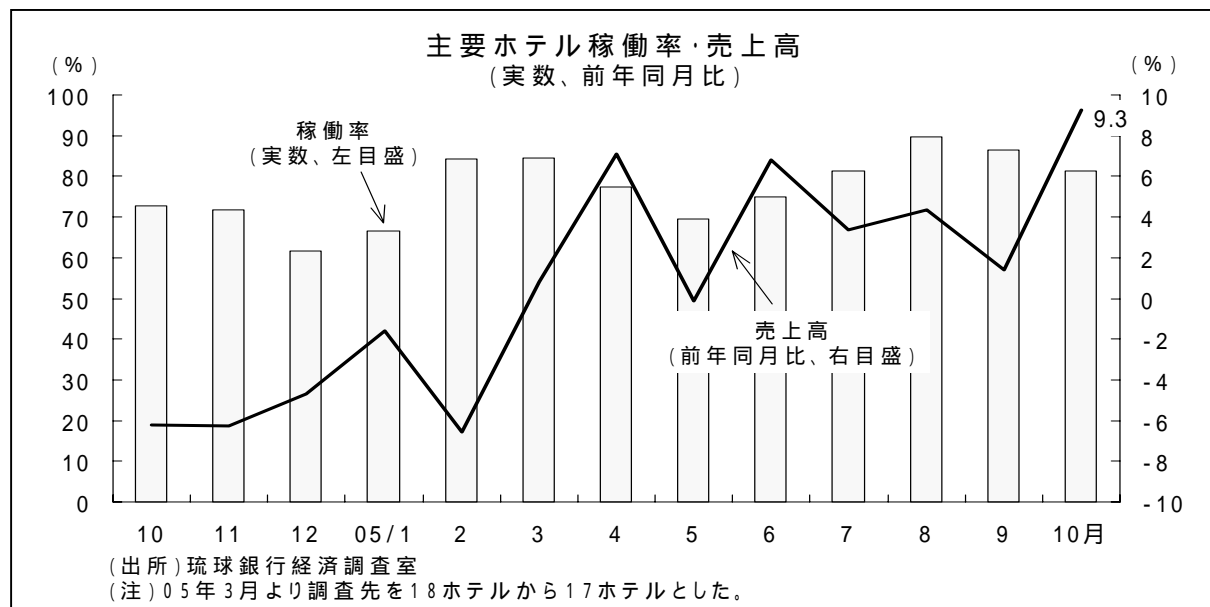
3. 観光関連

(1) 入域観光客数：8カ月連続で増加



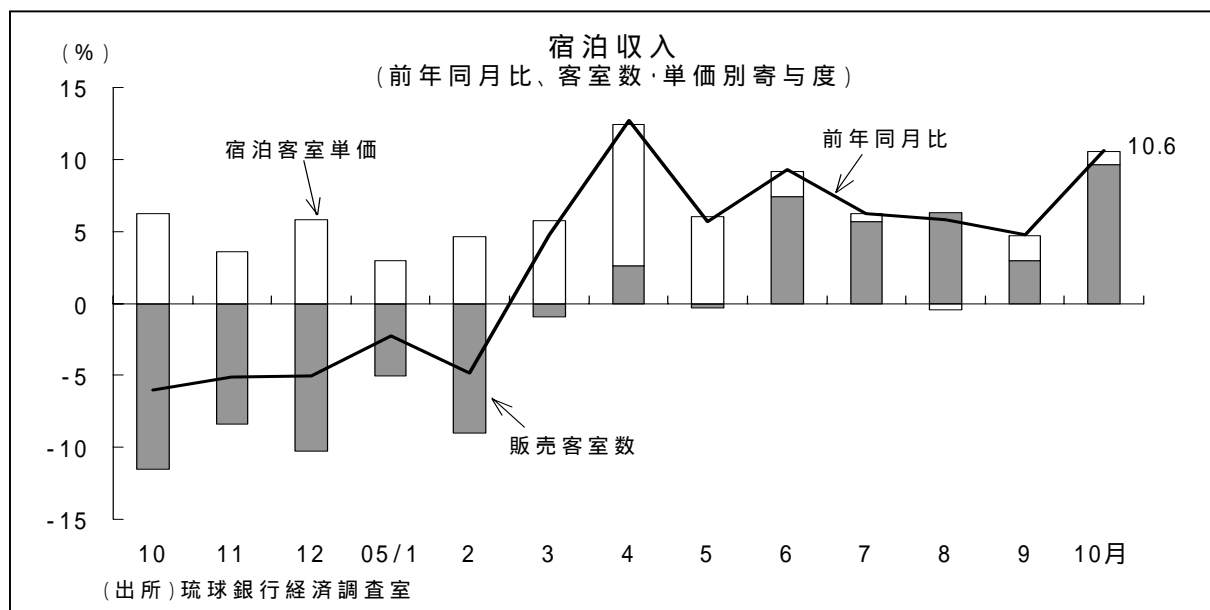
- 入域観光客数は、47万9,900人と、前年に比べ台風の影響が少なかったことや航空路線の増便や機材の大型化により提供座席数が増加したこと、修学旅行が増加したことなどから前年同月比11.8%増(5万700人増)と8カ月連続で前年を上回り10月の過去最高を記録した。
- 国内客(同11.2%増)は、8カ月連続で前年を上回った。外国客(同38.2%増)は台湾企業のインセンティブツアーによる送客(約600名)や、定期クルーズ船の運航が好調に推移したことなどから6カ月連続で前年を上回った。
- 11月1~20日の国内航空入域客数(下り便)は、前年同期比10.0%増と順調に推移している。

(2) 主要ホテル：稼働率は7カ月連続で増加、売上高は5カ月連続で増加



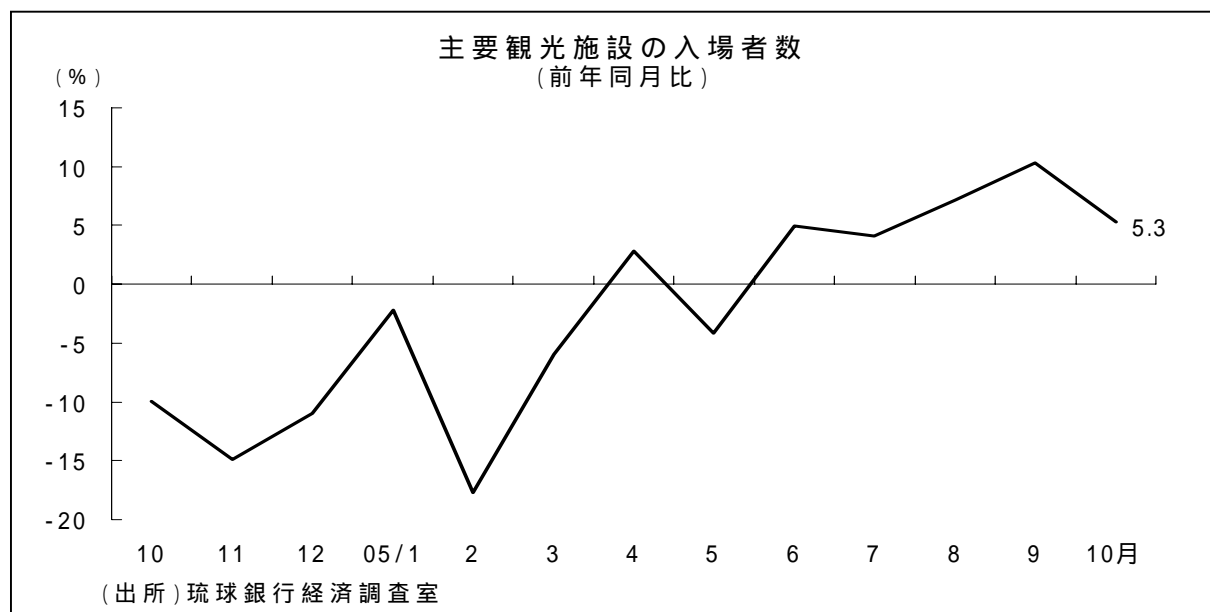
- 主要ホテルの客室稼働率は、81.4%で修学旅行の増加などから前年同月比8.6ポイント上昇と7カ月連続で前年を上回った。売上高は同9.3%増と5カ月連続で前年を上回った。
- 那覇市内ホテルの客室稼働率は、78.5%で同7.1ポイント上昇した。売上高は同11.7%の増加となった。リゾート型ホテルの客室稼働率は、83.7%で同10.0ポイント上昇した。売上高は同7.7%増となった。

(3) 主要ホテルの宿泊収入：8 カ月連続で増加



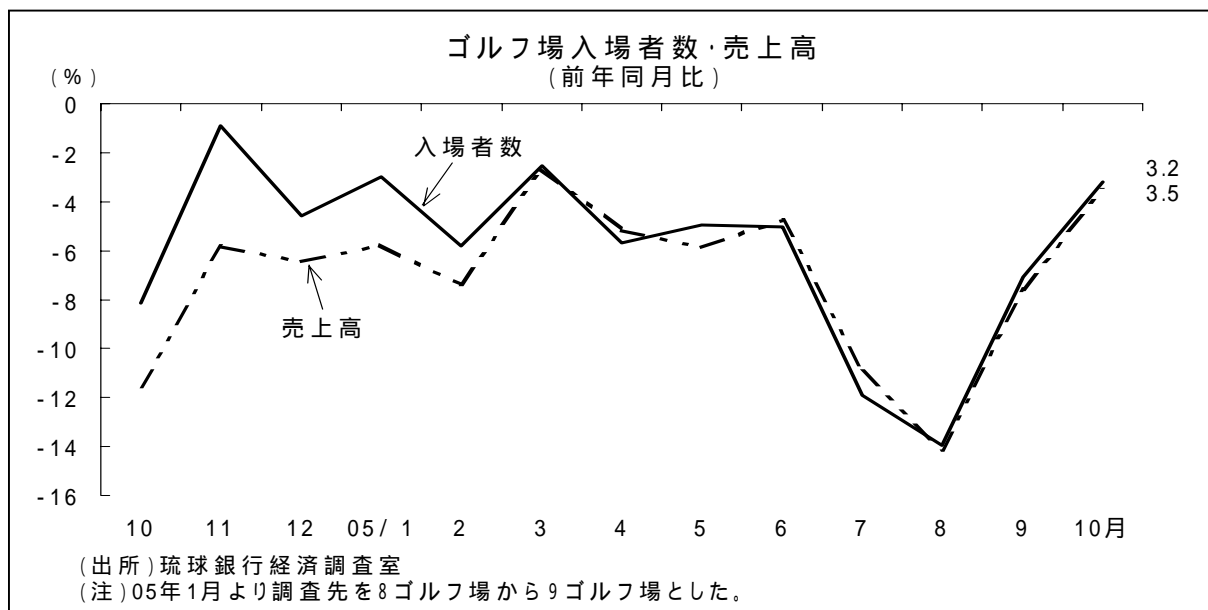
- ・ 主要ホテル売上高のうち宿泊収入についてみると、宿泊客室単価（価格要因）は2 カ月連続で増加し、販売客室数（数量要因）は5 カ月連続で増加したことから、全体では前年同月比 10.6% 増と 8 カ月連続で前年を上回った。

(4) 主要観光施設入場者数：5 カ月連続で増加



- ・ 主要観光施設の入場者数は、入域観光客数の増加を背景に前年同月比 5.3% 増と 5 カ月連続で前年を上回った。

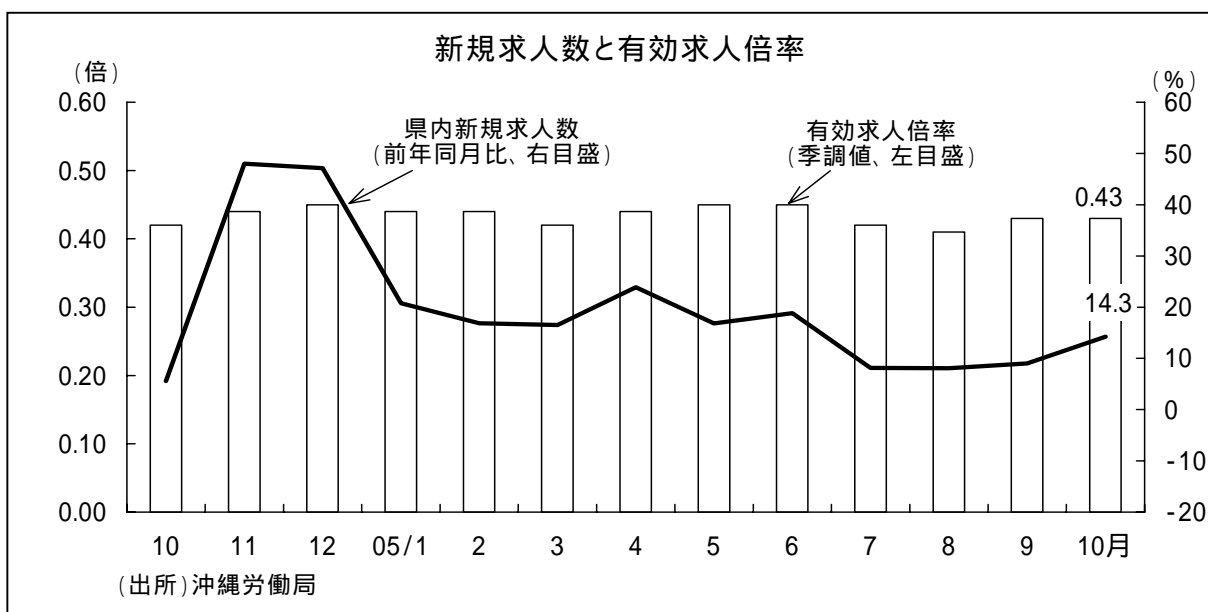
(5) 主要ゴルフ場稼働状況：入場者数は15カ月連続で減少、売上高は18カ月連続で減少



- ・ 主要ゴルフ場の入場者数は、県外客は増加したものの県内客が引き続き減少したことから前年同月比3.2%減と15カ月連続で前年を下回った。売上高は同3.5%減と18カ月連続で前年を下回った。

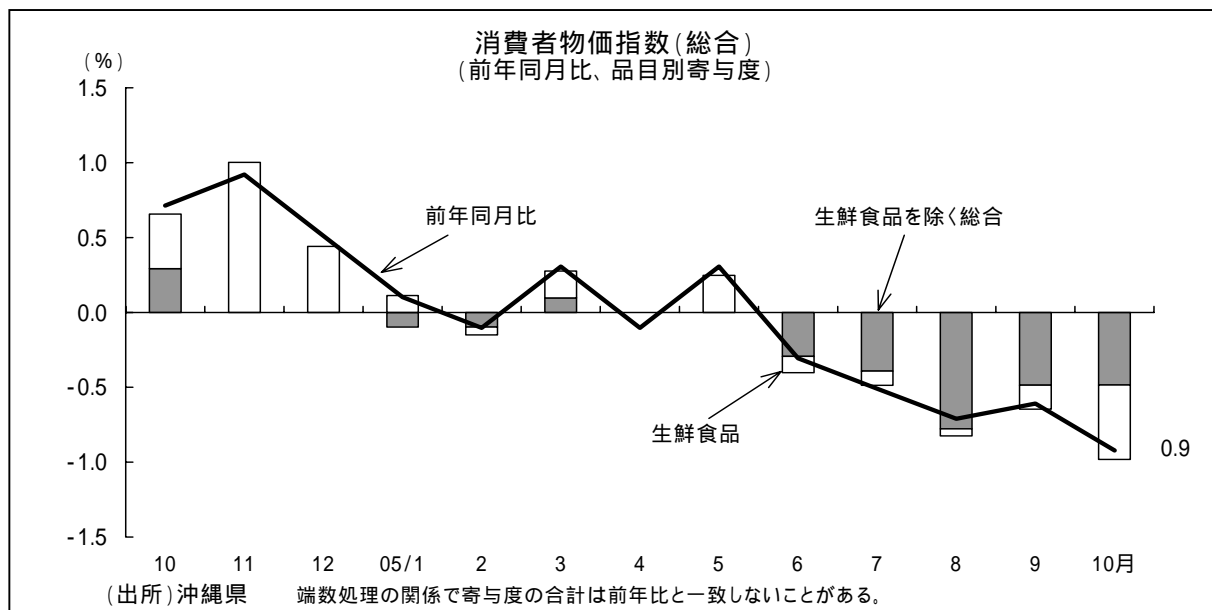
4. その他

(1) 雇用関連：新規求人数、有効求人倍率（季調値）ともに増加



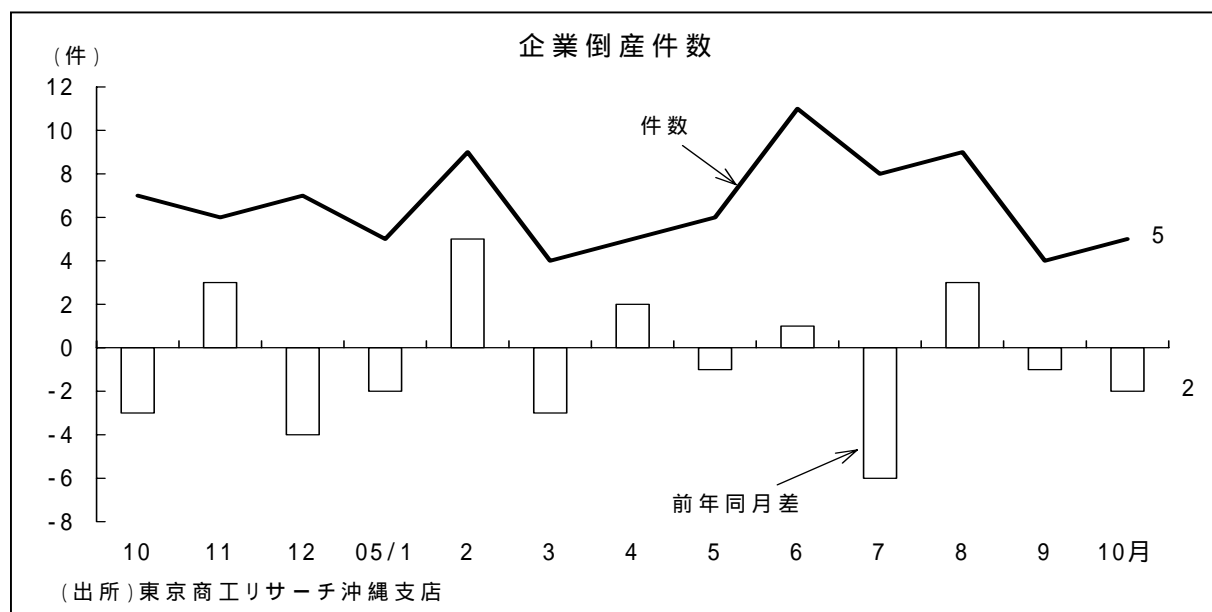
- ・ 新規求人数は、前年同月比14.3%の増加となり、21カ月連続の増加となった。産業別にみると、農林漁業、教育、学習支援業などで増加し、複合サービス事業、金融・保険業などで減少した。有効求人倍率（季調値）は、0.43倍となり、前月と同水準であった。
- ・ 労働力人口は、65万7千人で前年同月比2.5%の増加となり、就業者数は、59万9千人で同1.5%の増加となった。完全失業者数は、5万8千人で前年同月比13.7%の増加となった。完全失業率は8.8%で前年同月比0.8ポイント上昇した。

(2) 消費者物価：5カ月連続で低下



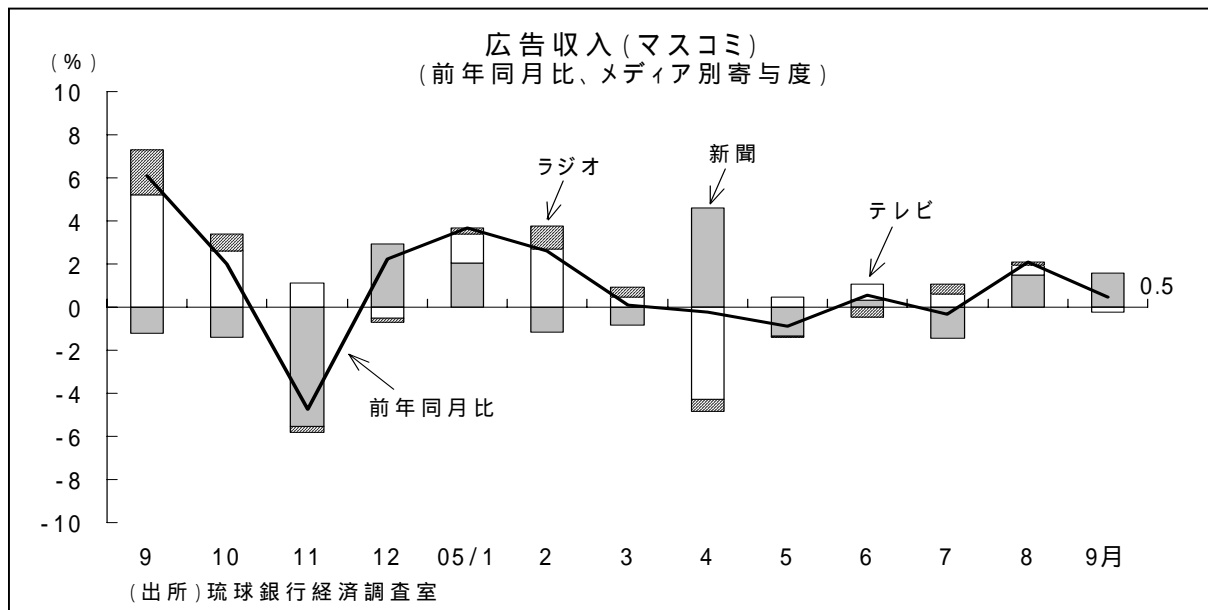
- ・ 消費者物価指数(総合)は、前年同月比0.9%の下落となり5カ月連続で前年水準を下回った。
- ・ 品目別の動きをみると、光熱・水道などが上昇し、食料、教養娯楽などが下落した。

(3) 企業倒産：件数は減少、負債総額は増加



- ・ 倒産件数は、5件となり前年同月を2件下回った。業種別では、建設業2件(前年同月差2件減)、製造業1件(同1件増)、卸売業1件(同1件増)、サービス業1件(同2件減)であった。
- ・ 負債総額は、10億8,000万円となり前年同月比16.9%の増加となった。

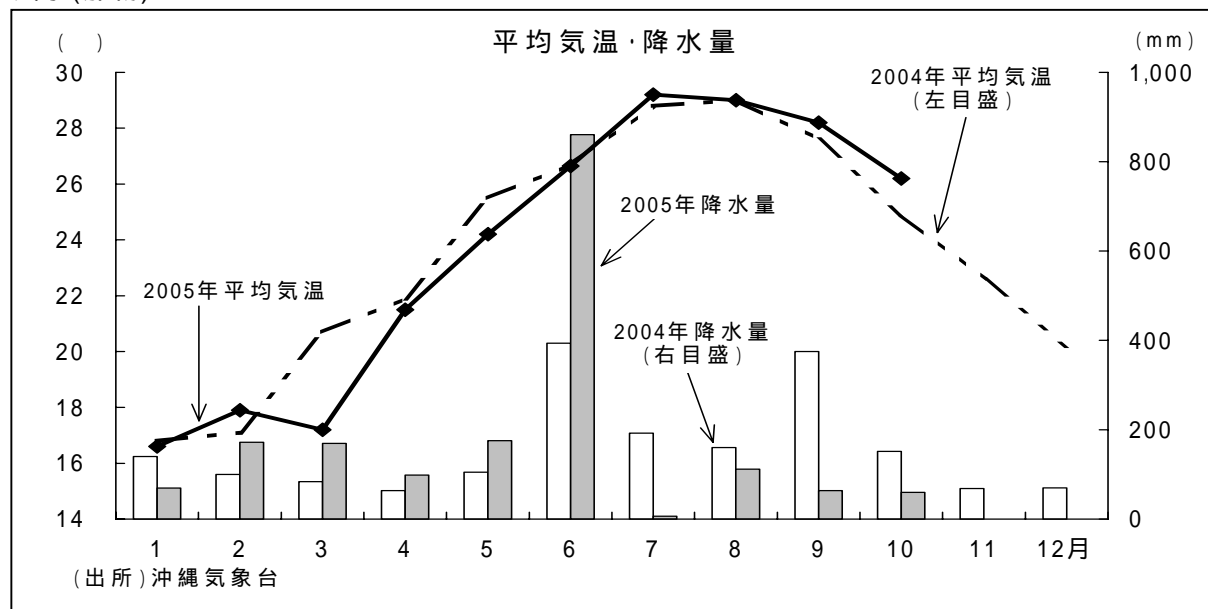
(4) 広告収入(マスコミ): 2カ月連続で増加



- ・ 広告収入(マスコミ: 9月)は、前年同月比 0.5%増と2カ月連続で前年を上回った。新聞が衆院選関連の出稿増などにより前年を上回ったものの、テレビ、ラジオは前年を下回った。

(参考)

気象(那覇)



- ・ 平均気温は 26.2 と前年同月(24.9)より高かった。降水量は 60.0mmと前年同月(151.5mm)より少なかった。

りゅうぎん景気動向指数 (R D I)

2005年9月分 (速報)

1. 2005年9月分 (速報) の概要

(1) 9月のRDI (速報) は、先行指数 40.0%、一致指数 37.5%、遅行指数 40.0%となった。

- ・ 先行指数は、2005年7月以降、3カ月連続で50%割れとなった。
- ・ 一致指数は、2005年8月以降、2カ月連続で50%割れとなった。
- ・ 遅行指数は、2005年5月以降、5カ月連続で50%割れとなった。

(2) 個別の経済指標の変化方向は、次のとおりである。

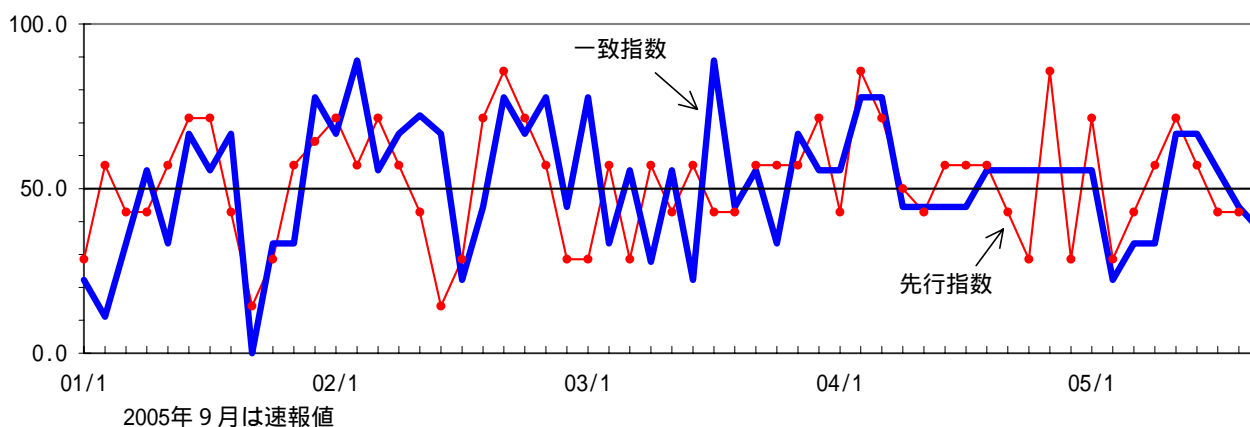
各指標とも3カ月前との比較で改善方向はプラス、悪化方向はマイナスとする。

- ・ 先行指数については、「企業倒産件数」、「不渡り手形発生率」が前月のマイナスからプラスとなった。「公共工事請負金額」は前月のプラスからマイナスに転じ、「建築着工床面積 (非居住用)」、「新規求人数」は前月に続きマイナスとなった。
- ・ 一致指数については、「セメント出荷量」、「百貨店売上高」が前月に続きプラスとなり、「雇用保険受給率」が前月のマイナスからプラスに転じた。「家電卸売額」は前月のプラスからマイナスに転じ、「新設住宅着工床面積」、「新車販売台数」、「入域観光客数」、「有効求人倍率」は前月に続きマイナスとなった。
- ・ 遅行指数については、「広告収入」が前月に続きプラスとなり、「ホテル客単価」が前月のマイナスからプラスに転じた。「地元3行貸出残高」は前月のプラスからマイナスに転じ、「法人事業税調定額」、「那覇市消費者物価指数」は前月に続きマイナスとなった。

(3) 2005年8月分の改訂値について

- ・ 8月のRDI (改訂値) は、全指標が公表されたことにより、先行指数が42.9% (速報 : 20.0%) に上方修正、一致指数が44.4% (同 : 37.5%) に上方修正、遅行指数が42.9% (同 : 50.0%) に下方修正された。

(図表1) りゅうぎん景気動向指数 (R D I)



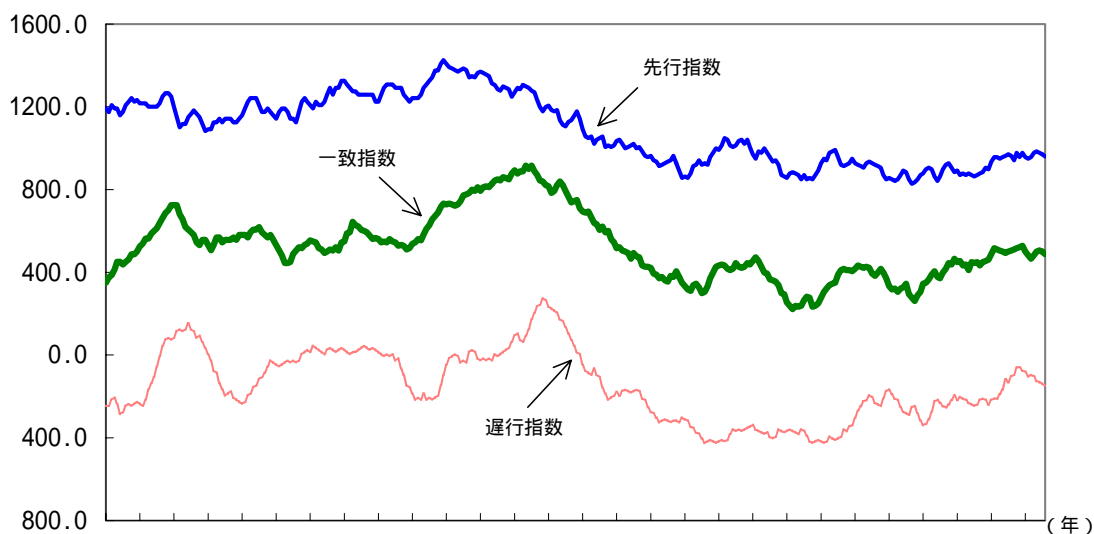
(図表2) りゅうぎん景気動向指数(RDI): 変化方向表

2005年9月分は速報値

指標名	2004年				2005年									
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
先行系列	公共工事請負金額(前)	-	-	+	-	+	+	+	+	-	+	-	+	-
	建築着工床面積(非居住用)	+	-	+	-	+	+	+	-	+	-	+	-	-
	所定外労働時間	-	+	+	-	-	-	-	+	+	+	-	+	n.a.
	新規求人数	+	-	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-
	鉱工業出荷指数	-	-	-	-	+	-	-	-	-	+	+	+	n.a.
	企業倒産件数(逆)	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-	-	+
	不渡り手形発生率(逆)	-	-	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	+
	拡張指標数	3.0	2.0	6.0	2.0	5.0	2.0	3.0	4.0	5.0	4.0	3.0	3.0	2.0
	採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	5
	先行指数	42.9	28.6	85.7	28.6	71.4	28.6	42.9	57.1	71.4	57.1	42.9	42.9	40.0
一致系列	新設住宅着工床面積	+	-	-	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-
	セメント出荷量	+	-	+	+	+	-	-	-	-	-	+	+	+
	百貨店売上高(前)	+	+	+	-	+	-	+	+	+	+	+	+	+
	新車販売台数(前)	-	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-	-	-
	家電卸売額	+	-	-	-	-	-	-	-	+	+	-	+	-
	鉱工業生産指数	-	+	-	-	+	-	-	-	-	+	+	+	n.a.
	入域観光客数	-	+	+	-	-	+	+	+	+	+	-	-	-
	有効求人倍率	-	-	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-
	雇用保険受給率(逆)	+	+	+	+	-	-	-	-	+	-	-	-	+
	拡張指標数	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	2.0	3.0	3.0	6.0	6.0	5.0	4.0	3.0
採用指標数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8	
一致指数	55.6	55.6	55.6	55.6	55.6	22.2	33.3	33.3	66.7	66.7	55.6	44.4	37.5	
遅行系列	法人事業税調定額	+	-	+	+	-	-	-	+	+	-	+	-	-
	那覇市消費者物価指数(前)	0	+	+	+	-	-	-	-	+	-	-	-	-
	鉱工業在庫指数	-	+	+	0	0	-	+	+	-	-	+	-	n.a.
	ホテル客単価	+	-	-	-	-	+	+	+	+	-	-	-	+
	広告収入	+	+	+	+	+	+	-	+	-	-	-	+	+
	地元3行貸出約定平均金利(前)	+	-	+	-	+	+	-	-	-	+	+	+	n.a.
	地元3行貸出残高(前)	+	+	+	-	-	-	-	-	-	+	-	+	-
	拡張指標数	5.5	4.0	6.0	3.5	2.5	3.0	2.0	4.0	3.0	2.0	3.0	3.0	2.0
	採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	5
	遅行指数	78.6	57.1	85.7	50.0	35.7	42.9	28.6	57.1	42.9	28.6	42.9	42.9	40.0

(逆)は逆サイクル、(前)は前年同月比、n.a.は未公表である。「0」は拡張指標数に0.5と計上する。「所定外労働時間」は全産業。「鉱工業出荷指数」、「鉱工業生産指数」、「鉱工業在庫指数」は石油を除く。

(図表3) 累積RDI



1975年3月=100、ただし、グラフを見やすくするため、先行指数は1975年3月=1200とした。直近値は2005年9月の値(速報値)

2. 景気動向指数について

景気動向指数とは、景気の現状把握及び短期的な将来予測を行うために、景気に敏感に反応する種々の経済指標の動きを統合することにより作成した総合的な景気指標であり、ディフュージョン・インデックス（D I）とも呼ばれている。

経済指標には、景気の変化に先立って動く指標と、ほぼ一致して動く指標、遅れて動く指標があり、D Iでは通常、先行、一致、遅行の3本の指数が作成される。このため、一般的に先行指数は、「景気の動きを予知」し、一致指数は「景気の現状を認識」し、遅行指数は「景気の転換点や局面を確認」することに利用できる。

景気動向指数では、採用指標数のうち改善を示している指標の構成比が50%超の場合、景気が拡大しており、50%未満の場合、景気は後退しているとみなす。

景気の局面（拡大、後退）が変化したかどうかは、一応3カ月以上続けて50%ラインを超えたか、割り込んだかが目安となるが、一時的な変化であったり、50%ライン近傍に留まる場合もあるため、景気判断に当たっては、拡大または後退の期間が極めて短い場合は、景気拡大または後退局面と考えることは適当でないし、また、大半の部門に景気変動が波及していること（すなわちD Iが100%あるいは0%に近いこと）を確認することも必要である。なお、D Iは変化率を合成したものでないため、D Iの水準自体の変化は景気変動の大きさないし振幅とは直接的には無関係であることにも留意する必要がある。

< 景気動向指数（D I、累積D I）の作成方法 >

個々の採用指標の値を3カ月前の値と比較して、増加した時にはプラス（+）を、保合いの時には（0）を、減少した時にはマイナス（-）をつける。ただし、景気が良ければ減少し、悪ければ増加する逆サイクルの指標については増加を（-）、減少を（+）とする。その上で、先行、一致、遅行の各指数について、採用指標数に占める拡張指標数（+の数）の割合（%）を算出し、この値をD Iとする。

$$D I = \text{拡張指標数} / \text{採用指標数} \times 100 (\%)$$

（保合い（0）の場合は0.5としてカウントする）

累積D Iとは、各月のD I値を次の式により累積したものであり、グラフの山、谷が実際の景気の山、谷と概ね符合するため、景気の推移が見易いものとなっている。

$$\text{当月の累積D I} = \text{前月の累積D I} + (\text{当月のD I} - 50)$$

(図表4) りゅうぎん景気動向指数(RDI): 個別指標の概要

指標名		季節調整方法等	作成機関
先 行 系 列	公共工事請負金額	前年同月比	西日本建設業保証株式会社沖縄支店
	建築着工床面積(非居住用)	X-12-ARIMA	国土交通省
	所定外労働時間(全産業)	"	沖縄県統計課
	新規求人数	"	沖縄労働局
	鉱工業出荷指数(石油を除く)	"	沖縄県統計課
	企業倒産件数(逆サイクル)	"	東京商工リサーチ沖縄支店
	不渡り手形発生率(逆サイクル)	"	那覇手形交換所
一 致 系 列	新設住宅着工床面積	X-12-ARIMA	国土交通省
	セメント出荷量	"	琉球銀行経済調査室
	百貨店売上高	前年同月比	"
	新車販売台数(軽自動車含む)	"	沖縄県自動車販売協会
	家電卸売額	X-12-ARIMA	琉球銀行経済調査室
	鉱工業生産指数(石油を除く)	"	沖縄県統計課
	入域観光客数	"	沖縄県観光リゾート局
	有効求人倍率	"	沖縄労働局
	雇用保険受給率(逆サイクル)	"	"
雇用保険受給率 = 受給者実人員 / 被保険者数			
遅 行 系 列	法人事業税調定額	X-12-ARIMA	沖縄県税務課
	那覇市消費者物価指数	前年同月比	沖縄県統計課
	鉱工業在庫指数(石油を除く)	X-12-ARIMA	"
	ホテル客単価	"	琉球銀行経済調査室
	広告収入(地元新聞社)	"	"
	地元3行貸出約定平均金利(月末水準)	前年同月比	日本銀行那覇支店
	地元3行貸出残高(平均残高)	"	琉球銀行経済調査室

季節調整は各機関が公表した原数値に当行経済調査室でX-12-ARIMAを用いて行った。

沖縄県内の主要経済指標.....	20
" 金融統計.....	22

沖縄県内の主要経済指標(その1)

暦年	百貨店 売上高	スーパー 売上高 (既存店)	スーパー 売上高 (全店)	電気製品 卸売額	新車販売 台数	泡盛 出荷量	公共工事請負額		建築着工床面積	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	百万円	前年比	千平米	前年比
2002	2.4	1.0	3.3	2.5	6.8	6.5	327,863	12.9	1,963.3	5.8
2003	6.9	1.2	6.8	1.7	6.2	8.0	329,962	0.6	2,062.7	5.1
2004	4.4	3.9	1.3	0.7	4.1	12.9	281,802	14.6	2,005.4	2.8
2004 9	2.5	5.3	1.9	2.9	3.7	7.8	45,272	9.7	260.5	44.2
10	6.2	2.7	0.0	1.9	9.7	5.3	31,727	13.0	135.4	36.3
11	3.9	4.7	0.6	9.4	1.0	8.3	18,154	21.2	184.9	59.1
12	5.5	6.8	2.6	1.0	25.9	2.2	22,743	13.0	154.3	28.5
2005 1	3.0	4.6	0.3	1.0	7.8	0.8	14,097	12.8	182.7	4.5
2	8.3	4.6	0.7	0.7	1.2	4.0	15,879	7.1	161.4	18.2
3	5.4	4.8	0.6	1.9	14.8	1.1	28,090	11.4	155.2	31.0
4	1.8	1.7	2.5	9.7	14.1	4.6	20,026	103.0	127.0	26.9
5	4.3	2.5	1.0	1.7	13.3	6.5	8,907	22.7	187.4	54.1
6	1.3	2.6	1.2	13.2	11.1	10.3	27,765	9.8	159.2	57.0
7	0.6	1.2	4.1	16.0	6.0	9.9	29,209	40.4	173.2	8.0
8	1.0	1.8	0.7	5.0	7.7	5.2	25,517	1.8	141.5	11.7
9	0.2	0.4	1.4	5.8	9.9	0.9	33,514	26.0	165.2	36.6
10	0.3	0.1	1.8	31.5	7.8	-	30,060	5.3	-	-
出所	琉球銀行経済調査室調べ				自販協	酒造連	西日本建設業保証 沖縄支店		国土交通省	

注) 新車販売台数の出所は沖縄県自動車販売協会、泡盛出荷量は沖縄県酒造組合連合会。

注) スーパー売上高は2005年1月より調査先を4社から5社とした。

注) 電気製品卸売販売額は2005年1月より調査先を6社から10社とした。

暦年	新設住宅着工戸数		建設 受注額	セメント 出荷数量	生コン 出荷数量	鋼材 売上高	建材 売上高	入域観光客数		観光施設 入場者数
	戸	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	千人	前年比	前年比
2002	13,672	1.5	2.6	2.3	1.9	6.3	11.1	4,834.5	9.0	17.5
2003	13,872	1.5	5.8	4.1	4.2	8.4	4.6	5,084.7	5.2	13.7
2004	13,502	2.7	6.9	0.5	1.0	30.6	0.7	5,153.2	1.3	7.5
2004 9	1,310	3.2	12.1	3.5	9.7	32.1	6.2	457.8	7.1	22.6
10	1,199	18.2	34.2	9.4	8.7	18.3	5.7	429.2	3.7	9.9
11	1,297	39.9	0.2	7.6	3.2	35.8	3.6	409.9	4.3	3.6
12	1,058	4.0	10.5	6.5	15.3	17.9	5.1	390.8	2.6	11.0
2005 1	1,221	2.3	42.7	1.2	8.7	24.9	5.4	392.4	3.5	2.2
2	1,139	41.8	26.6	21.5	22.7	3.7	7.9	421.3	3.4	17.7
3	1,126	1.9	17.9	10.8	9.1	17.3	12.6	506.7	4.2	5.9
4	1,094	18.1	22.9	4.2	5.5	6.0	11.9	446.6	6.7	2.8
5	1,257	32.6	28.4	11.3	11.0	7.4	8.7	414.4	4.9	4.2
6	1,251	69.5	21.6	8.5	9.1	6.9	4.9	416.7	9.3	5.0
7	1,434	27.9	40.0	3.1	2.5	10.7	6.1	478.7	7.5	4.1
8	1,257	7.0	11.9	8.9	0.7	0.7	0.7	563.6	7.7	7.1
9	1,289	1.6	28.2	15.0	12.0	15.0	4.3	491.4	7.3	10.3
10	-	-	24.9	12.0	7.2	1.1	3.5	479.9	11.8	5.3
出所	国土交通省		琉球銀行経済調査室調べ				沖縄県観光商工部 観光企画課		琉球銀行	

沖縄県内の主要経済指標(その2)

暦年	ホテル稼働率 (実数)		ホテル売上高 (前年比)		ゴルフ場 入場者数	広告収入	鉱工業生産指数 (季調値)		電力使用量	
	市内	リゾート	市内	リゾート	前年比	前年比	2000年=100	前年比	百万KW	前年比
2002	80.5	76.0	4.0	7.2	0.3	6.0	98.8	3.1	4,036	0.1
2003	81.5	78.6	1.2	4.9	0.6	2.9	94.6	4.2	4,165	3.2
2004	77.0	74.5	0.7	0.2	5.3	0.7	91.7	3.0	3,414	18.0
2004 9	82.4	84.9	3.6	6.7	2.1	6.1	91.0	5.2	343	22.7
10	71.4	73.7	4.4	7.2	8.2	2.0	86.4	10.5	314	23.1
11	81.7	65.5	4.8	7.3	7.7	4.7	88.2	1.6	268	23.4
12	70.8	55.6	3.9	5.2	4.6	2.2	88.2	7.1	239	22.8
2005 1	75.9	60.6	0.1	2.6	3.0	3.7	85.5	0.7	228	19.6
2	91.4	79.5	2.0	9.6	5.8	2.6	84.9	11.0	208	22.7
3	86.6	83.0	1.3	1.7	2.5	0.1	84.2	18.8	198	26.0
4	77.4	77.4	7.7	6.8	5.7	0.4	86.9	13.7	218	0.5
5	66.1	72.4	6.2	3.2	5.0	0.9	80.8	7.0	238	0.3
6	73.6	75.9	10.1	5.0	5.1	0.6	90.0	8.4	275	4.8
7	74.0	87.3	3.5	3.2	11.9	0.3	88.5	0.2	319	0.6
8	85.8	92.8	10.0	2.9	14.1	2.1	89.0	2.0	364	1.3
9	82.7	89.5	0.9	1.6	7.1	0.5	-	-	352	2.8
10	78.5	83.7	11.7	10.0	3.2	-	-	-	-	-
出所	琉球銀行経済調査室調べ					県企画開発部統計課			電気事業連合会	

注) ゴルフ場は、2005年1月より調査先を8ゴルフ場から9ゴルフ場とした。

注) ホテルは、2005年3月より調査先を18ホテルから17ホテルとした。

注) 鉱工業生産指数の暦年値、前年比は原指数の増減率。

暦年	企業倒 産件数	負債総額		消費者 物価指数	失業率 (未季調値)	就業者数	有効求人 倍率 (季調値)	新規 求人数 (県内)	通関輸出	通関輸入
	件	百万円	前年比	前年比	%	前年比	倍	前年比	百万円	百万円
2002	113	28,448	48.5	0.9	8.3	0.7	0.30	17.5	37,848	177,033
2003	119	54,421	91.3	0.2	7.8	1.6	0.36	20.2	79,557	207,779
2004	83	34,176	37.2	0.1	7.6	2.2	0.40	14.8	74,694	185,777
2004 9	5	720	33.8	0.5	7.7	1.7	0.41	22.6	5,986	21,157
10	7	924	52.5	0.7	8.0	4.1	0.42	5.6	7,129	11,690
11	6	410	4.7	0.9	7.3	1.0	0.44	48.0	6,831	15,774
12	7	470	75.0	0.5	7.2	0.7	0.45	47.1	5,088	21,717
2005 1	5	827	74.8	0.1	7.7	0.7	0.44	20.8	6,696	11,215
2	9	5,247	107.4	0.1	7.4	2.8	0.44	16.9	5,342	13,837
3	4	900	94.1	0.3	8.0	3.0	0.42	16.5	5,127	14,780
4	5	190	533.3	0.1	7.3	0.2	0.44	23.9	5,554	19,787
5	6	17,733	1,739.5	0.3	7.8	0.0	0.45	16.8	8,614	12,557
6	11	1,040	74.3	0.3	7.7	1.2	0.45	18.8	7,435	17,959
7	8	827	88.0	0.5	7.0	1.2	0.42	8.2	3,586	20,699
8	9	1,779	30.4	0.7	7.9	1.2	0.41	8.1	8,627	20,453
9	4	25,163	3,394.9	0.6	8.9	1.2	0.43	9.0	8,549	19,982
10	5	1,080	16.9	0.9	8.8	1.5	0.43	14.3	-	-
出所	東京商工リサーチ沖縄支店		県企画開発部統計課			沖縄労働局 職業安定課		沖縄地区税関		

沖縄県内の金融統計

年度	銀行券 発行額	銀行券 還収額	銀行券 増減 (還収 超)	貸出金利 (地銀3行)	手形交換高(金額は10億円)				不渡実数 (金額)	不渡 発生率
	億円	億円	億円	月末%	千枚	前年比	金額	前年比	百万円	%
2002FY	4,179	5,132	951	2.882	688.6	7.3	1,079.2	5.3	2,846	0.264
2003FY	3,721	4,776	1,053	2.787	619.8	10.0	933.8	13.5	2,408	0.258
2004FY	4,178	5,265	1,087	2.644	547.5	11.7	857.4	8.2	2,066	0.241
2004 9	230	431	200	2.752	43.8	18.6	70.1	12.3	301.8	0.431
10	300	389	88	2.761	40.7	17.2	56.4	21.5	211.2	0.374
11	586	717	131	2.754	47.5	15.5	66.5	23.8	153.7	0.231
12	710	347	362	2.740	45.3	14.9	68.0	15.5	62.5	0.092
2005 1	206	692	486	2.739	42.1	8.5	62.0	0.8	138.5	0.223
2	263	323	60	2.719	40.8	22.2	59.1	7.9	155.3	0.263
3	321	370	48	2.644	47.0	18.1	86.6	6.0	107.4	0.124
4	339	332	6	2.671	39.0	19.4	68.1	20.2	117.3	0.172
5	212	547	335	2.687	47.2	0.4	83.3	6.5	178.7	0.214
6	315	281	33	2.688	44.0	10.1	75.6	0.4	182.4	0.241
7	305	300	5	2.687	35.3	20.6	62.8	6.0	141.3	0.225
8	270	464	193	2.675	43.5	15.1	74.8	10.1	246.5	0.330
9	233	415	182	-	38.5	12.2	64.5	8.0	110.4	0.171
10	-	-	-	-	36.7	9.8	59.5	5.4	73.1	0.123
出所	日本銀行那覇支店				那覇手形交換所					

注) 不渡発生率は、不渡実数(金額) ÷ 手形交換高(金額) × 100

年度	地銀3行預金量 (信託勘定含む未残)		郵便貯金 (未残)		地銀3行融資量 (信託勘定含む未残)		沖縄振興開発 金融公庫融資量 (未残)		沖縄県信用保証協 会債務残高	
	十億円	前年比	十億円	前年比	十億円	前年比	十億円	前年比	十億円	前年比
2002FY	2,951	1.3	1,001	1.7	2,338	1.7	1,600	3.8	165.6	14.6
2003FY	2,989	1.3	975	2.5	2,427	0.1	1,505	5.9	153.3	7.4
2004FY	3,216	7.6	-	-	2,441	0.6	1,415	5.9	142.0	7.4
2004 9	3,021	2.2	-	-	2,401	1.3	1,462	5.7	141.3	10.2
10	2,948	2.8	-	-	2,338	0.6	1,455	5.8	140.6	10.2
11	2,984	1.8	-	-	2,341	0.6	1,448	5.7	139.3	10.1
12	2,990	2.2	-	-	2,362	0.2	1,446	5.4	138.9	9.8
2005 1	2,945	2.0	-	-	2,348	0.6	1,438	5.4	139.2	9.0
2	2,960	2.1	-	-	2,370	0.4	1,430	5.3	139.1	8.0
3	3,216	7.6	-	-	2,441	0.6	1,415	5.9	142.0	7.4
4	3,054	1.5	-	-	2,343	0.8	1,406	5.8	139.0	7.7
5	3,027	0.1	-	-	2,309	0.6	1,400	5.6	134.8	7.7
6	3,083	0.1	-	-	2,298	1.2	1,400	5.5	132.6	9.6
7	3,015	0.2	-	-	2,296	1.2	1,387	5.8	132.0	8.1
8	3,001	0.3	-	-	2,310	0.8	1,378	5.7	131.5	7.5
9	3,036	0.5	-	-	2,392	0.4	1,363	6.8	131.9	6.7
10	2,964	0.6	-	-	2,345	0.3	-	-	-	-
出所	琉球銀行		総務省		琉球銀行		沖縄振興開発金融 公庫		沖縄県信用保証協会	